令和２年７月１８日

北海道高等学校文化連盟美術専門部加盟校
美術部生徒の皆さんへ

北海道高等学校文化連盟美術専門部専門委員長
北海道大麻高等学校　太　子　　弘　和

新型コロナウィルス渦における美術展・審査について

全道で美術部に在籍し、これから作品製作をしようと考えている生徒の皆さん、あるいは今年の美術大会に向けて製作してきた生徒の皆さん。

年始より世界で蔓延を始めた新型コロナウィルスの影響により、「美術部員あるいは美術部員に関わる方達の健康」「大会会場となる地域（十勝）の方達の心情」を第一優先に考え、高文連全道十勝大会の中止という判断を余儀なくされました。

「自分史上最高の作品」を生み出す為に、デッサンやクロッキーといった基礎トレーニングを黙々と続けながらも、多くの作品を鑑賞する中で得た構図や構造についての知識を活用しながらモチーフ（題材）に関わる検討を進め、今年度の大会に向けて頑張ろうと思っていた２，３年生にあっては悔しい思いをしている方もいることでしょう。君たち同様、指導されてきた美術部顧問をはじめとする先生達、支えて下さってきた保護者の皆さんも辛い思いでいるに違いありません。

できる限り、そういった人たちを減らしたいという思いから、北海道高文連美術専門部では今年度「展覧会」と「審査」を分離し、作品の画像データを活用した審査を採用する中で、「安全に配慮しつつ皆さんの活動の場を確保するという手立て」をとることにしました。皆さんには規定をしっかり守った上で制作に取り組み、素晴らしい作品を生み出していただきたいと願っております。

例年と異なるのは「審査が原則デジタルで行われること」です。忘れないでいただきたいのが絵画でも立体でも美術作品にとって、画層（絵の具の層）や材質感・素材感がもつ「実物の美しさ」は大変重要であり、本来は「デジタルなどに置き換えることが出来ない物」であるという事です。美術作品製作を教える者としては、皆さんが末永く本物の作品作りに関われる術（すべ）を身につけることが重要と考えています。今年度に限っては暫定的に「デジタルという手立て」をとるのだ、といいうことを念頭に置き、本来作品製作において重視すべき手順を大切にしながら制作して下さい。

撮影は必ず学校に持ち込んだ作品を元に「第三者である顧問の先生に確認してもらいながら」おこなってください。デジタルの画像加工は作品の見栄えを公平にする観点から「“トリミング”と“明度”および“自然な彩度調整”（出品規定を参照）」にとどめるよう、お願いします。皆さんも公平性に欠ける中で入選・受賞したいとは思わないはずです、まずは顧問の先生としっかり相談頂いた上で出品手続きを進めて下さい。

作品展はネットワーク上で行われることになります。支部大会で選抜された皆さんの作品がネットワーク上でお披露目される日を楽しみにしています。